

松江市の花 椿

松江では冬から春にかけて、各所で椿が咲いています。特に松江城の西の曲輪は「椿谷」と呼ばれる樹齢数百年の鬱蒼としたやぶ椿の林があり、城山を散策する人々の目を楽しませてくれます。

また、椿は茶花としても重宝し、普段の生活でお茶をたしなむ松江では欠かせない花として、民家の庭にも様々な椿が植栽されています。椿は古くから松江の人々に愛されており、現在では松江市では市の花となっています。

松江市の花となったのは、古く合併する以前の昭和49年(1974)6月1日のことです。平成18年(2006)に新松江市となってからも引き続いて市の花であり、松江市営バスのボディや下水道のマンホールにデザインされています。

このように松江の人々に愛された椿は、当市出身の画家が題材とし取り上げています。このミニ展示では、松江歴史館が所蔵する椿の作品や松江市と椿とのかかわりについて紹介します。



草光信成 《椿櫻図》

草光信成(1892~1970)は、出雲市今市町で生まれ松江市母衣町で育ちます。

松江中学を卒業後、1911年に画家を志して上京し東京美術学校西洋画科に入学します。

卒業後は和田三造に師事し、1927年、28年、30年に帝展で特選を受賞しました。

太平洋戦争中の1943年に戦禍を避けて松江に疎開し、松江美術研究所の講師として指導にあたり、島根洋画会の発足に加わりました。



石村春荘(1900～1992)は、松江市殿町出身の八雲塗を専門とする漆芸家です。

1915年に八雲塗研究所に入所し技法を習得、その間に日本画や洋画も学ぶ。1921年から八雲塗制作に専念し、その伝統を保持するとともに工芸的価値を高めました。八雲塗では自ら絵付けを行うために描画に優れ、数多くの絵画を残しています。

石村春荘《椿図》



市の木・市の花 シンボルマーク



松江市郊外の下水マンホールの蓋(左:展示用、右:実物)



八重垣神社の連理玉椿

推定樹齢 400 年以上のヤブ椿で、二本の椿が根本付近で合体している。資生堂の花椿会ではこの椿を神聖視していた。



松江城 椿谷のヤブ椿

松江城西の曲輪を「椿谷」と呼び、多数のヤブ椿の他、様々な品種の椿が約 4,200 本も群生している。椿の中には樹齢 300 年を超えるものもある。